

森林やまがた

No.167

2017. 1

フォレスト
サポーターズ



美しい森林づくり推進国民運動

山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

新年のご挨拶.....	2	対談シリーズ	
平成28年度川村造林記念山形県林業賞.....	3	「森林組合長に聴く」.....	13
「協和木材(株)新庄工場」の本格稼働に向けて.....	4	森の人紹介	
平成28年台風9号災害について.....	6	犬沼健藏さん・三上重幸さん.....	14
治山・林道技術研修会を終えて.....	7	「森づくり活動セミナー&活動報告会」を開催.....	15
「第2回全国森林ノミクスサミット		平成29年度山形県みどり豊かな推進事業	
in 山形」について.....	8	募集開始のお知らせ.....	16
やまがたの木(A材)利用拡大戦略策定について... 9		伐採から再造林まで民国連携一貫作業システム	
みどりのページ		現地検討会開催.....	16
緑の少年団による「樹木の健康診断と		尾花沢市細野地区6次産業化の取組み.....	17
緑の募金活動」を行いました.....	10	フラワー長井線「森林ノミクス号	
森の教室「どんぐりくんと森の仲間たち」を		秋のめぐみを楽しもう」の運行.....	18
開催しました.....	10	地域再生シンポジウム「持続的な広葉樹利用による	
緑の少年団の出前教室を開催しました.....	11	地域再生」の開催について.....	19
フォレスト通信		「庄内森とみどりのフェスティバル2016」を	
「森を読む力」を育てたい.....	12	開催しました！.....	20



新年のご挨拶

山形県農林水産部

林業振興課長 安 達 喜代美

平成二十九年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

皆様には、日ごろより、本県の森林・林業・木材産業の発展につきまして、多大な御支援、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、本県の林業界にとりまして、大きな節目となる忘れることができない一年となりました。平成二十五年に知事と全ての市町村長の賛同を得て、本県の豊かな森林資源を活用して、林業の振興と地域の活性化につなげていく「やまがた森林ノミクス」宣言で始まった「森林ノミクス」の取組みが、本格的に開花した年となりました。

県では、森林ノミクスの取組みを県民総参加で推進するため、昨年一年かけてその道標となる条例を検討し、昨年十二月の県議会において「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」（通称「やまがた森林ノミクス推進条例」）が可決制定され、十二月二十七日に施行されました。条例では、県や森林所有者、林業・木材産業事業者の責務等を規定しているほか、林業・木材産業の振興に関する施策や森林資源の活用促進に関する施策などを規定しています。中でも、他県にない本県独自の条項として、森林資源の循環利用を促進するための「再造林の推進」や、新たな木材の需要を喚起し、雇用の創出を図るための「林工連携等の推進」などの取組みを盛り込んでいます。

現在、この条例に基づき具体的な施策を進めていくため、第二次森林整備長期計画の改定作業を進めており、数値目標の見直しや新たな目標の設定を検討しているところです。

一方、新庄市に整備を進めてきた大型集成材工場については、昨年の九月から原木の集荷を、十月からは一部試運転を開始し、今年三月の本格稼働に

向けた準備が順調に進められています。木質バイオマス発電施設についても既に稼働している鶴岡市や村山市の施設の他に、新たに六箇所で計画が具体化しており、県産木材の大幅な需要が見込まれています。

他にも、昨年四月には、県立の農業大学校を「農林大学校」に改め、新たに林業経営学科を設置して、十五名の学生を迎え、森林ノミクスを支える若きリーダーの育成がスタートしたほか、林業の魅力を発信し、林業への新規就業者等を支援する本県独自の「青年林業士制度」の創設により、十一名の青年林業士が誕生しました。

このような中で、本県の「森林ノミクス」の取組みは、昨年九月、全国知事会において、都道府県の先進的な施策三千四百件の中から、今年度の優秀施策に選定されました。また、昨年三月、森林ノミクスで地方創生につなげていこうと本県が呼びかけて、「日本の森を再生させる有志十八道県から政策提案」として、関係省に提案活動を行いました。その後三十八道県まで広がって、七月には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連施設での国産材利用について提案活動を行うなど、森林ノミクスの取組みは、全国に着実に浸透し始めていると認識しています。

平成二十九年の県の予算では、条例に基づく具体的な取組みを進めたいと考えており、再造林を推進するための事業や、林業と工業が連携して新たな製品開発につなげる「林工連携」に関する事業、県産木材の利用を促進する県民運動の展開などに取り組んでいきたいと考えています。

県といたしましては、「森林ノミクス」による林業・木材産業の振興と中山間地域の活性化等を推進するため、関係者の皆様と連携しながら、川上から川下までの総合的な取組みを積極的に進めてまいりたいと考えておりますので、皆様方の御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本県の森林・林業・木材産業の益々の発展と、皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。

〔県林業振興課〕

平成二十八年年度 川村造林記念山形県林業賞

佐藤景一郎氏・荒生周一氏が受賞

はじめに

本県林業の発展や振興に貢献した個人、団体をたたえる川村造林記念山形県林業賞の表彰式が、昨年十一月十七日に山形市のホテルメトロポリタン山形で行なわれ、吉村知事から表彰状と記念の盾が受賞者に授与されました。

本年度は、真室川町長から推薦のあった「佐藤景一郎氏」と、酒田市長から推薦のあった「荒生周一氏」が受賞されました。

川村造林記念山形県林業賞とは

川村造林記念山形県林業賞は、本県の第二十三代知事、川村貞四郎氏が寄贈された山林を基金として、本県の民有林業の振興・発展に貢献した個人、団体を対象に表彰するため、昭和三十九年に創設されました。本賞は本県林業界における最高の賞であり、昭和四十年の第一回表彰以来、本年度までに受賞された方は、個人五十六名、四十七団体となっています。

佐藤景一郎氏

(真室川町大字大沢)

平成三年度から真室川森林組合の理事に就き、その後、平成八年度に設立された最上広域森林組合の初代表理事組合長に就任され、以来、現在まで、広域組合代表として地域の森林整備に尽力されました。

また、平成十六年度に山形県森林組合連合会の代表理事会長に就き、平成十八年度には、全国森林組合連合会の代表監事に就任するなど、活動は県内だけでなく全国にも活躍の場を広げられました。



受賞した佐藤景一郎氏

所有している人工林については、持続可能な森林経営を計画的に行うため、森林経営計画制度にいち早く取組むとともに、集約的な森林施業と間伐材の積極的な利用に取組まれ、地域林業の模範となる森林経営を實踐されています。

荒生周一氏(酒田市大蔵)

昭和四十五年から造林・間伐事業に取組まれるとともに、管理できなくなった方から森林を取得し、人工林の育成や集約化施業を推進するなど、地域の森林整備のリーダーとして、地域林業を牽引されました。



受賞した荒生周一氏

昭和六十二年に会社を設立され、小規模な森林所有者を取りまとめて、プロセッサ等の高性能林業機械の活用による集約化施業を實踐されました。

また、長尺材など付加価値の高い木材の生産や搬出間伐に取組まれ、森林所有者への還元を行うなど、地域林業の振興に大きく寄与されました。これまで庄内素材生産組合理事長、山形県森林ノ整備事業協同組合理事などの要職に就かれ、県内の林業の活性化に貢献されています。



吉村知事を囲んでの記念撮影

おわりに

このたび受賞されました佐藤様、荒生様に心からお祝いを申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。〔県林業振興課〕

「協和木材(株)新庄工場」の本格稼働に向けて

本県の豊かな森林資源を森の恵み、森のエネルギーとして活かしていく「やまがた森林ノミクス」推進の中核事業として、新庄市に建設中の協和木材(株)新庄工場の本格稼働に向けた取り組み及び進捗状況等についてお知らせします。

◆会社の概要

協和木材株式会社 代表取締役 佐川広興(国産材製材協会会長)

所在地 東京都江東区東陽五―三〇

一―三 昭和二十八年創業 資本金一億円 従業員数約二百二十人

事業内容は、集成材等製材加工、製品販売及び素材生産等で、原木消費量は約三十万立方メートル、国産材製材最大手となっており、売上高は約六十一億円(平成二十六年度)となっています。

◆新庄工場の概要

立地場所は、新庄中核工業団地(新庄市福田地内)内にあり、二区画で面積約十二ヘクタールとなっています。

事業概要としては、ラミナ製材機械設備、集成材機械設備、ボイラー

設備、乾燥機設備、目立て設備、検査設備等整備、集成材工場等建築工事、電気・給排水工事、整地舗装工事等となっています。

事業費(補助対象事業費)は約三十八億円で、国庫補助金約十九億円、県補助金七億八千万円の支援を受け実施中であり、原木消費量は年間十二万立方メートルで、集成材三万六千立方メートルを出荷する計画となっています。

協和木材(株)新庄工場 位置図



◆工事の進捗状況と今後の予定

十二月末現在の工事進捗状況は、建築外構工事、電気設備工事、製材機械等購入等、大規模な工事は既に終了しており、整備は順調に進んでいます。

このうち、製材施設(ラミナ製材



集成材工場棟の外観(W-ALC使用)



試験稼働中のラミナ製造機械

機械設備)は十月十一日から試験稼働を開始し、その後、木材乾燥機

設・木質バイオマスボイラー等が十一月十日から、集材加工施設等は十二月中旬から試験稼働が開始されました。

今後は、平成二十九年一月上旬からJAS認定取得に向けた試験稼働を行いながら、様々な調整を経て、三月下旬から本格的な稼働を予定しています。

◆原木の受入れ状況

原木の受入れは九月一日から開始されました。約六・六ヘクタールの原木置場には、原木を満載したトラックが次々に来場し、十一月末日現在、約二万二千九百立方メートルの原木が集積されました。

産地別の内訳は山形県産約一万四千立方メートル、宮城県産約二千六百立方メートル、秋田県産二千六百五十立方メートル、岩手県産四千五十立方メートルとなっており、県産材の占める割合は約六十パーセントとなっています。また、山形県産の組織別内訳は森林組合連合会系約七千五百立方メートル、木材産業協同組合系約六千五百立方メートル、その他五百五十立方メートルとなっています。新庄工場の一カ月当たりの原木消費量は一万立方メートル強を見込んでおり、これらの原木は

概ね二カ月で消費される量に相当します。



集積された原木



原木の集積状況

◆雇用の状況

新庄工場の新設により、最上地域を中心に四十八名（男性三十八名、女性十名）が採用されました。市町村別では、新庄市二十六名、最上町四名、舟形町二名、金山町四名、真室川町四名、大蔵村四名、戸沢村三名、尾花沢市一名となっています。年代別では三十歳台以下が四十一名を占め、若者の雇用に大きく貢献しています。

採用者は事前に、福島県の工場研修を受け、機械設備等の整備・調整の状況に合わせて、順次新庄工場に配属され、工場の本格稼働に向け、万全の準備態勢をとっています。

◆原木安定供給の取組み

新庄工場の新設により、木材需要が大きく伸びてきました。九月一日から始まった原木受入れの結果、山形県産材の占める割合は約六割であり、他県産が約四割を占める状況となっています。

今後、県産材比率を高め、本県森林資源の有効活用を図る必要があります。対策として、県レベルでは県産木材の安定供給に向けた組織体制の検討が行われているほか、再造林、間伐材等搬出に係る更なる支援策等について検討しています。

最上地域においても木材の増産体制の強化が急務であり、①人材・事業体の育成強化対策【伐る人対策】では、森林組合とともに経営計画の再検討や作業班の育成について協議検討を行い、増産に向けた取組みを支援しています。

②低コスト林業推進対策【伐る場所対策】では、管内市町村、森林組合との連携強化と情報共有のため、原木供給団地の設定や、森林経営計画の作成支援のため管内市町村において座談会を開催するなどして、増産に向けた取組みを支援しています。これらの取組みを今後とも粘り強く継続し、地域の木材生産が拡大するよう関係者への働き掛けを続けていくことにしています。

◆おわりに

協和木材(株)新庄工場の稼働により、最上地域をはじめとする山形県の森林資源が有効活用される好機を迎えています。林業者、関係団体及び行政関係者が一致協力して、「やまがた森林ノミクス」が一層推進されるよう皆様方の御協力をお願いします。

〔最上総合支庁森林整備課〕

平成二十八年台風九号災害について

一 気象概況

台風九号は、八月二十二日十二時半頃に千葉県付近に上陸し、東北地方の太平洋側を北に進み、二十三日六時には北海道日高地方に上陸しました。

山形県には二十二日夜に最も接近し、県内各地で非常に激しい雨が降りました。

この大雨の影響により、三町村の住民に避難勧告が出されたほか、道路の崩壊や土砂流出などにより二市町の温泉で孤立状態が生じました。

主な地点における日降水量は次のとおりです。

林道施設や林地においても大雨による災害が発生しました。

22日午後2時～23日午後4時までの最大24時間雨量

観測地点	最大24時間雨量(mm)
大蔵村木遠田	178
鶴岡市添川	133
飯豊町東沢	115
舟形町堀内	112
大石田町大石田	105
村山市土生田	104
大江町沢口	99

二 被害概況

【林道施設】

○公共災害 六市町村、八路線、一箇所

被害額 七千七百七十七万三千元

○小災害 十二市町村、六十六路線、一〇五箇所

被害額 四千七百七十九万九千元

被害を受けた地域は、村山五市一町、最上三町村、置賜三市町、庄内一市

【治山施設】

一箇所

【林地被害】

山腹崩壊・九箇所

林道施設で公共災害に該当しない小災害については、市町村単独事業等により復旧を予定しているほか、緊急に対応が必要な林地被害については、県単独治山事業により対応中です。

三 林道施設災害復旧事業について

林道施設の公共災害は、十月二十五日から二十八日まで災害実地査定が行われ、決定事業費として、七千三百四十一万円、査定率九十四・四パーセントとなりました。



飯豊町 東沢線 復旧延長 L=24m 路肩欠壊



大蔵村 熊高桜峠線 復旧延長 L=26m 路体流出

今回の災害実地査定にあたり、申請者である市町村職員とサポートする各総合支庁職員、業務を担当された測量設計会社の方々には、発災後二ヶ月という短期間で準備いただき、また、査定中の様々な事項についても、迅速かつ真摯に対応いただきましたことに感謝申し上げます。林道施設の利用者の方々には、現在、不便をお掛けしておりますが、災害復旧工事の発注に向けて、関係市町村と県で準備を進めておりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

四 最後に

局所的、短時間での記録的豪雨が全国的に頻発し、近年は、山形県においても、ほぼ毎年豪雨による施設被害が発生しており、甚大な被害がいつどこで発生しても不思議ではない状況にあります。

平成二十八年度の林道施設の災害箇所数は、それほど多くはありませんでしたが、今回の災害実地査定で得られた経験が、少なからず施設管理者としての技術力の継続的な発揮に繋がっていくのではないかと期待しています。

〔県林業振興課〕

治山・林道技術研修会を終えて

― 県土の森林整備のために ―

◆ 治山技術研修会

一 研修会の趣旨

近年、集中豪雨による災害が頻発しており、流域保全における治山事業の果たす役割はますます重要になっております。このため、治山事業の計画技術の向上を図るため、平成二十八年十月に、一般社団法人山形県林業コンサルタントと山形県の共催により研修会を開催しました。

二 研修内容

① 室内研修

「流域保全計画の方法」と題して、流域保全技術研究所の所長であり、農学博士・技術士である清水宏氏から講義をしていただきました。講義のポイントは次のとおりです。

- ・ 治山計画と砂防計画の変遷
- ・ 治山（流域保全）と砂防（防災）の技術一体化Ⅱ体系化
- ・ 流域保全で対象とする現象
- ・ 流域特性の把握
- ・ 流域保全計画（流域特性に応じた施設の効果と配置）

② 現地研修

山形市蔵王温泉祓川にて、過去の



土砂移動現象の把握の一指標となる樹木の単木調査手法を中心に研修を実施しました。主な内容は、次のとおりです。

- ・ 樹木林齢調査
- ・ 不定根の発生状況調査
- ・ 上伸枝の発生状況調査

三 研修を終えて

参加された調査測量会社の方からは「現地の樹木を注視することで土砂移動の状況が推測できることを学んだ」とか「これまで同様の研修がなかったので、有意義であった。今

後も是非続けてほしい」などの感想がありました。

◆ 林道（森林路網）技術研修会

一 研修会の趣旨

森林技術担当職員の業務に必要な基礎的知識、林業専用道及び森林作業道の路網計画に關しての技術向上を図るため、平成二十八年十月に東京大学大学院農学生命科学研究科森林利用学研究室 酒井秀夫教授を講師にお招きし研修会を開催しました。

二 研修内容

① これからの路網整備

講義のポイント

○ 線形計画において、周辺状況の状況把握・円弧すべりの形跡があるか破砕帯があるか。山の尾根のくぼんだ部分、鞍部の下は注意が必要。

○ 縦断勾配の計画において、波形勾配を取り入れ、排水を分散することの効果事例。

② 現地検討

現地は大江町内にある林業専用道を研修場所として選択しました。林業専用道・森林作業道の課題は、切土勾配がきつく、原則緑化せず排水施設もないところです。現地起点部は、用地の条件から長大な法面になり、小段もなく浸

食を受けた土砂が法尻付近に堆積している状況でありました。

（酒井教授）

国の作設指針は、最低限のレベルを確保するもので、現場状況に応じて変更対応すべき。（参加者）

毎年利用するのではなく、間伐材を搬出するまで、ある程度期間が経過してしまうといった実情から、補助上限額を超えてまで緑化していないのが現状。

③ 意見交換会（室内）

林業専用道の水処理・法面保護・拔根利用と土場に関して意見交換を行い、酒井教授から、これからの林業専用道の計画時には退避所兼土場が有効ではと話がありました。

◆ 最後に

今回の両研修で得られた知識と様々な立場で技術向上に努める姿勢が、今後の業務に活かされることを期待いたします。

なお、開催にあたり（一社）山形県林業コンサルタント様、（株）ザオ―測量設計様、（株）寒河江測量設計事務所様から多大なる御協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

〔県林業振興課〕

「第2回全国森林ノミクスサミット in山形」レポート

平成二十八年十一月二十一日、山形市内の会場で「第2回全国森林ノミクスサミット in山形」(主催 山形県、後援 林野庁)を開催しました。

県では、地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」「森の恵み」として活かしていく『やまがた森林ノミクス』を宣言し、林業の振興を図り雇用を創出し、地域活性化につなげる取組みを進めています。



主催者あいさつ(吉村知事)

この地方創生の要ともなる「森林ノミクス」の取組みを全国に発信するとともに、全国の取組事例を知り、さらなる林業の振興や地域活性化に結び付けていくためサミットを開催

したところ、県内外約三百人の方から御参加いただきました。

◆開会

開会にあたり、吉村知事の主催者あいさつに続き、来賓の林野庁長官(代理 宮澤木材産業課長)から御祝辞をいただきました。

◆第一部 講演

第一部は、総務省・地域力創造アドバイザーでもある(株)古川ちいきの総合研究所代表取締役 古川大輔氏が「森林資源の活用による地域再生」森ではたらく！新たな事例」と題し、全国の具体的な事例を交えて講演されました。地域資源マーケティングには消費の三要素である「必要性」「欲求性」「物語性」の活用が大切であるなど、多くの気付きを得ることができました。

◆第二部 パネルディスカッション

第二部は、「豊かな森林資源を活用した地域の活性化」をテーマに、幅広い分野の方々が、木材利活用の課題、森林資源利活用の方策などについて意見を交わされました。コーディネーター等の方々は次の七名です。

コーディネーター 三浦秀一(東北芸術工科大学教授)、パネリスト ルイジ・フィノキアロ(オーストリア大使館上席商務官、瀬野和広(瀬野和広+設計アトリエ主宰)、西塚直臣(株)天童木工常務取締役)、阿部多喜子(金山町森林組合)、宮澤俊輔(林野庁木材産業課長)、アドバイザー 古川大輔(敬称略)



パネルディスカッション

◆展示コーナー

会場内に設けられた木製サッシや家具、建築部材、木製玩具など山形の木工品・木工技術の展示コーナーも来場者の興味を引いていました。展示に御協力いただいたのは次の企業・団体です。

アルス(株)、協和木材(株)、(株)シエルト、So-tennen、(有)たくみまさの、(株)天童木工、(株)ニューテックシンセイ、BDAC山形、山形県木材産業協同組合(五十音順)



展示コーナー
(木工品プロダクトコンペ優秀作品)

また、全国各地の林業関係の取組みを知るために、全国知事会の先進政策バンクに登録している政策のパネル展示も行いました。なお「やまがた森林ノミクスの推進」は今年度の優秀政策に選ばれています。

◆情報交換会

会場を移して行われた情報交換会では、講師、コーディネーター、パネリストとサミットの参加者が、サミットの内容や地域活性化の話題を通じて交流の輪を広げました。

〔県林業振興課〕

やまがたの木(A材)利用拡大戦略策定について

◆戦略策定の趣旨・背景

県内では集成材工場や木質バイオマス発電所の稼働により、B・C材の木材需要が急激に高まっています。こうした中、B・C材と一体的に生産され、増産が見込まれるA材の利用拡大を図るため、県では製材・加工・流通の専門家からなる「やまがたの木利用拡大戦略プロジェクト会議」を設置し、これまで計三回にわたりA材の利用拡大方策を検討してきました。このたび具体的な取組みの方向性を示す「やまがたの木(A材)利用拡大戦略」を策定したので、御紹介します。

◆戦略の位置づけと期間

この戦略は、本県の森林・林業施策の基本計画である「山形県森林整備長期計画」に基づく戦略として位置付け、同計画で定める平成三十一年度を目標年度としています。

◆戦略の基本的な考え方

本戦略の基本的な考えは以下のとおりです。

- ・ 県内製材工場における高品質加工等の木材加工施設整備やニーズに応じた木材製品を安定供給する

仕組みづくり等を推進し、競争力の高い製品の生産・供給体制を整備する。

県内におけるA材利用については、住宅分野での利用が最も期待されることから、家づくりに対する支援を行うとともに、これまでに以上に設計事務所等へ働きかけを行い、公共施設や民間の交通拠点施設等など、非住宅分野での利用につなげていく。

首都圏や近隣県での利用拡大に向けて、木材関係業者がこれまで取引等で培ってきたネットワークを最大限活用しながら、産直住宅の取組みを推進するとともに、住宅フェアなどで積極的に売込みを図り、ハウスメーカー等にやまがた県産木材を採用してもらうことでA材の需要を作り出していく。

県内外での県産木材の利用拡大に向け、パンフレット等を活用したPR活動を強化していく。

◆戦略の柱

- ① 競争力ある製品生産に向けた取組み（県産木材の加工体制強化と

安定供給

- ② 販売促進に向けた取組み（県産木材の需要拡大）

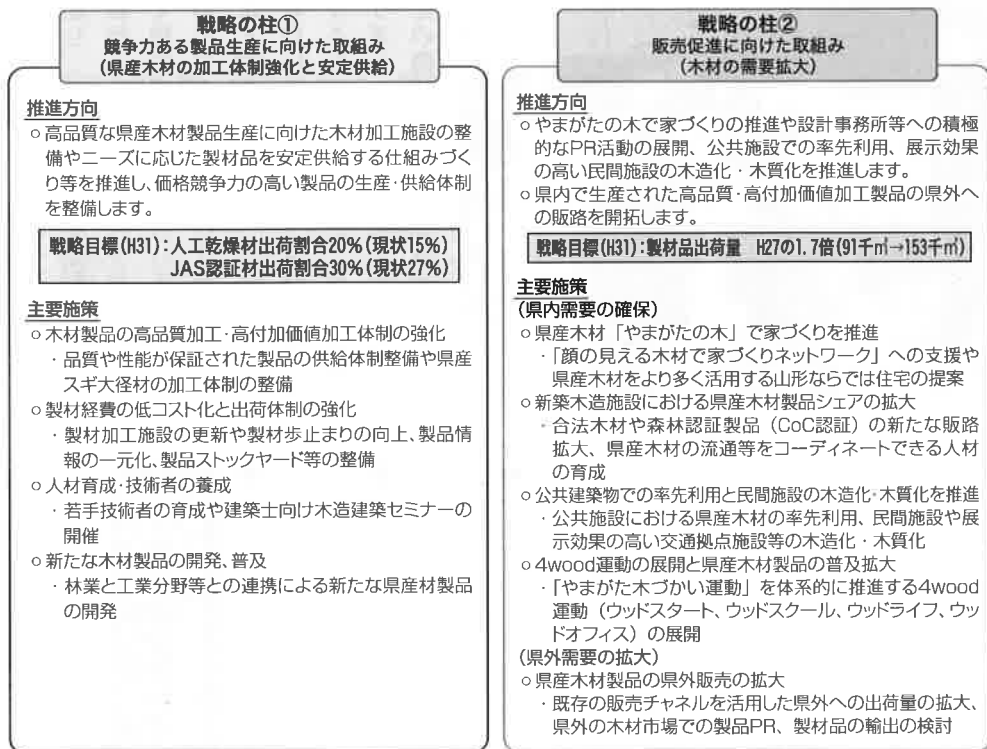
を二つの柱として取組みを推進し、A材の利活用による雇用の創出と地域の活性化を図っていくこととしています。

◆今後の施策展開

県では、本戦略に基づき、各種施策を積極的に展開してまいりますので、林業・木材産業の関係団体の皆様には、より一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

〔県林業振興課〕

やまがたの木(A材)利用拡大戦略の柱と主要施策



やまがたの木(A材)の利用拡大による林業・木材産業の振興

雇用の創出と地域の活性化



みどりのページ

緑の少年団による
「樹木の健康診断と緑の
募金活動を行いました」

◆ 期日 平成二十八年十一月二十日
◆ 場所 天童市久野本熊野神社、
山形県総合運動公園

◆ 主催 山形県緑の少年団連盟

◆ 協力 グリーン巴樹木医事務所
関 敏之氏(茨城県石岡市)

◆ 開催概要

山形県緑の少年団連盟では、緑の少年団員が緑と親しみ、緑を愛し、緑を未来につなぐ心を育むための様々な活動に取り組んでいます。

この日は、酒田緑の少年団員十名が天童市を訪れ、樹齢約六百五十年の天童市指定天然記念物「熊野神社の大ケヤキ」を対象に「樹木の健康診断」を行いました。

団員たちは、まず、樹木の身体計測として、メジャーで計測した幹の太さや神社の氏子さんから聞いたおおよその樹齢、枯れ枝の有無などを樹木の『問診票』に記入していきます。また、樹木医が行う診断方法を教わり、木槌で幹を叩いて異常な場所を探したり、鋼棒という道具を使って根元の腐朽状態の確認などを行いました。そしていよいよ音響波



ドクターウツズの解析結果を見る子供たち



木槌でトントントン
「この辺の音がにぶいな〜」

を使って樹体内部の腐朽状態を解析する「ドクターウツズ」による診断の見学です。解析の結果がコンピュータの画面に表示されると、団員たちは食い入るように画像を見つめ、異常があった部分の周辺を叩いたり覗いたりしていました。この活動を通して、樹木の生命力を感じ、老木を敬う心を育むことができました。

午後からは山形県総合運動公園に移動し、モンテディオ山形の最終戦で賑わうNDソフトスタジアムの周辺で緑の募金活動を行いました。はじめは募金を呼び掛ける声小さかった子供たちですが、慣れてくると掛け声は大きくなり、多額の募金を頂くことができました。募金活動というボランティアを通して、社会に奉仕の精神も養うことができました。



緑の募金へのご協力
ありがとうございます!

活動の最後にはモンテディオ山形の最終戦を全員で観戦しました。ほとんどの団員は初めての観戦だったようですが、三対〇の圧勝にみんな大興奮の様子でした。

山形県緑の少年団連盟では、今後も緑の少年団活動の活性化を図るた

め、様々な自然体験活動を支援して参ります。

森の教室「どんぐりくんと
森の仲間たち」を開催しました

◆ 期日・会場

十一月一日 嶋ほいくえん

十一月二日 金井幼稚園

◆ 主催

(公社) 国土緑化推進機構

(公財) 山形県みどり推進機構

◆ 特別協力

株式会社ファミリーマート

◆ 開催概要

保育園や幼稚園の園児を対象に、森の楽しさを伝え、学ぶ「森の教室」が四年目を迎え、今年は山形市内の二会場で開催されました。

この森の教室は、国土緑化推進機構が、株式会社ファミリーマートの協力を得て、これまで百二十回ほど全国各地で開催してきました。県内での開催は今年で十一箇所となり、約千五百人の園児が参加してくれました。

森の教室では、緑の募金キャラクターのどんぐりくんとファミリーマートの環境イメージキャラクターエロンから、「海が豊かなのは森林があるから」などと学び、どんぐりく



みどりのページ

山形県緑の少年団連盟では、少年団活動に対して講師派遣や教材提供を行う出前教室を実施して

- ◆ 開催概要
- ◆ 参加者
いいで緑の少年団員 二十八名
- ◆ 期日
平成二十八年十月二十六日
- ◆ 場所
飯豊町立添川小学校いなほ
学校林

緑の少年団の出前教室を開催しました



どんぐりくんとエコロンと一緒に
森の体操1. 2. 3!

んとエコロンとオリジナル「森の体操」を楽しみました。最後に園児たちがプランターにどんぐりを播き、数年後には、園内や地元の山に里帰りすることになっています。



ビンゴゲームで自然発見

〔公財〕山形県みどり推進機構

います。いいで緑の少年団では四年目の開催となりました。
始めに、森林インストラクターの先生から、森に潜む危険やマツ枯れについて教わりました。次に、ビンゴゲームをしながら、鳥の巣やウサギのふん、いい匂いの葉っぱなどたくさん「自然」を発見しました。
そして、昨年が続いての学校林整備活動として、施肥と枝払い、除伐を行いました。除伐では、隣り合うサクラとクリのどちらを残したいかを全員で考え、サクラを残すことに決めました。自ら考え、自ら手入れた学校林がどんな姿になるか、大人になっても見守り続けてほしいと思います。

緑の募金に御協力いただいた企業・団体のみなさま (H28. 10. 1~11. 30)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

(株)アイト工業、(株)相田商会、曙ブレーキ山形製造(株)、(株)阿部製材所、荒生木材(有)、(株)荒正、(有)アルファ設計、衣袋建設(株)、(有)今川自動車商会、(株)イヨテクニカル、(株)ウエステック山形、(株)ウンノハウス、(株)エスアンドケイ、SWS東日本(株)、(株)エスパワー、(株)エヌイーエスコポレーション、(株)王祇建設、(株)大風印刷、置賜クリーン設備(株)、(株)沖田木材産業、奥山建設工業(株)、(株)小澤商店、オビサン(株)、(株)カナン、上浅川堰組合、(株)環境管理センター、(株)菊地建設、共和防災建設(株)、(株)日下部工務所、(株)クネット東北、(有)くまがい、(株)クリーン総業、(株)ケンコン、(有)県南エコサービス、(株)幸輪、小白川建設(株)、(株)小森マシナリー、(株)蔵王ミート、(株)栄製作所、(株)寒河江測量設計事務所、(株)さくらんぼテレビジョン、(有)佐藤砂利販売、(有)佐藤測量設計事務所、(株)佐藤防災、三協コンサルタント(株)、(株)三洋、城東機械製造(株)、庄内環境緑化事業協同組合、(株)庄内銀行、(株)庄内銀行県庁前支店、庄内たがわ農業協同組合、城北電気工事(株)、伸栄伝導機工(株)、森林総合研究所山形水源林整備事務所、(株)スペースパーツ山形、(株)セゾンファクトリー、(株)ダイシン、大伸建設(株)、大和工営(株)、高島電機(株)、(株)高橋組、(株)タカハタ電子、(株)滝の湯ホテル、中央公害清掃(株)、(株)出羽測量設計、東北エプソン(株)、東北興産(株)、東北銘醸(株)、(株)東北緑地造苑、十和建设(株)、中山ロータリークラブ、(株)成沢運輸、(有)西長合金鑄造所、(株)仁科工務店、日本地下水開発(株)、農林中央金庫山形支店、ハイメカ(株)、(株)パスコ山形支店、(株)ピンテック、プッシュ建設(株)、ブレンスタッフ(株)、(株)マツダ建設、(有)丸吉製作所、水澤化学工業(株)水沢工場、三ツ和工業(株)山形工場、明立工業(株)、(株)メコム、(株)最上金属、本沢郵便局、(株)モリヤ、(株)モンテディオ山形、八千代田精密(株)、山形オートリサイクルセンター(株)、山形環境保全協同組合、(株)山形銀行南山形支店、山形空港ビル(株)、山形空調(株)、山形健康管理センター、山形県理化学分析センター、(株)山形城南木材市場、山形食品(株)、(株)山形新聞社、(株)山形道路、(株)山形ハーネス、(株)山形ビルサービス、山形放送(株)、山建工業(株)、(株)ヤマムラ、(株)山本製作所、(株)ライナー、(株)理研分析センター

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました。

「森を読む力」を育てたい

◆はじめに

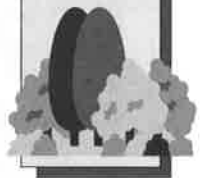
十二月に入ると里山の木々も白い雪化粧をはじめ、ようやく冬の気配が感じられるようになりました。

林業経営学科の授業も、十月と十一月は実習林や森林組合の現場等での実習の日々が続きました。

◆森林組合の現場等での実践実習

十月中旬から十一月下旬にかけて、最上広域森林組合や金山町森林組合、山形森林管理署最上支署などから御協力をいただき、実際の現場において伐出や採材、植栽、一貫作業等の実習を行いました。

まず、十月中旬には、最上広域森林組合の間伐施行地において、三日間にわたり、職員の方々からハーベスタやフォワーダなどの高性能林業機械の操作や伐出等の指導をいただきました。三日間とも異なる作業現場においてそれぞれの現場状況に応じた内容で行われ、効果の高い実習となりました。特に、「商品を取っていることを忘れないように」という組合職員の方からの言葉は、学生たちの心に強く残ったようです。「産業



は消費者から商品を買ってもらって成立する」、これは当然のことながら林業についても同じことで、伐採・搬出にあたっては、商品価値が落ちないよう細心の注意を払う必要があります。学生は、実際の作業現場での実習を通して、技術のみならず木材という商品を取扱うプロフェッショナルとしての考え方も学びました。



間伐施行地でのフォワーダを使った実習

また、十一月には、金山町森林組合や種苗生産を行っている真室川町の橋本さんからの御協力をいただき、グラップルによるはい積み作業（丸

太の積上げ）やスギ苗の山出し、植栽実習を行いました。特に二九日は雪が降る寒い中での植栽実習となりましたが、学生たちは五十年、六十年後の大きく成長したスギを想いながら丁寧に植栽しました。植栽した苗は、健全に成長しなければ利用可能な資源にはなりません。その意味でも、「緑の循環システム」の初期段階となる育苗と植栽は最も基本となります。

このほかにも、山形森林管理署最上支署が最上町の国有林で実施した一貫作業の現地研修にも参加させていただきました。一貫作業は、車両系伐出機械により、伐採・搬出から地拵え、植栽まで連携して同時に行う低コスト施業として注目されており、将来の林業を担う学生に学んでもらいたい技術の一つです。



金山町でのスギの植栽

◆八カ月間の講義・実習を通して

四月に始まった林業経営学科の授業も約八カ月が過ぎ、これまでの講義や実習を通して、学生たちは森林・林業の基礎知識、基礎的技術から実践的技術まで順調に学んでいます。特に実習については、地拵え、植栽から枝打ち、間伐、伐採、搬出まで

と、一部の施業を除き一連の作業を実習してきました。中でも、高性能林業機械等をはじめとする実習やインターンシップでは、森林組合をはじめとする関係機関の方々から多大な御協力をいただき、まさしく地域ぐるみで若手後継者を育てようという「やまがた森林ノミクス」への思いが強く感じられます。今後ともさまざまなからの御指導をいただきながら、十五人の学生たちはさらに大きく成長していくものと思えます。

◆「森を読む力」を育てたい

習得した知識・技術を将来にわたって活かしていくためには、森を見て正しく判断する力、「森を読む力」が必要です。林業経営学科では、これから冬の森にも積極的に通い、四季を通じた森のようすを観察しながら、学生たちの「森を読む力」を育てていきたいと思えます。

〔山形県立農林大学校〕

対談シリーズ 森林組合長に聴く



今号から森林やまがた対談シリーズ「森林組合長に聴く」を全十三回で連載の予定です。地域の森林所有者の代表であり、森林ノミクスを推進する森林組合の代表でもある組合長と、県森林研究研修センター所長が、森林に対する個人的な思い入れから、業界に対する将来の展望まで語り合っていたきたいと思います。

なお、対談に先立ち、組合長と組合職員には事前アンケートを実施し、対談の参考にしています。

第一回目は、温海町森林組合代表理事組合長大井喜助氏と鈴木健治所長との対談です。

大井組合長は、鶴岡市温海川在住。六十歳までは関西や関東でスーパーゼネコンの直轄下請けとして活躍され、帰郷後に、温海川地内の国道三四五号線沿いに「産直きらり」を開設。地域の農産物のほか栃の実を使った商品を開発・販売している。組合員歴五十二年、理事十五年、組合長一期目。

◆木より、人を育てよう

所長…山形県では森林ノミクスを進めています。こうした中で温海町森林組合はここ四・五年で素材生産量を四倍に伸ばしていますね。

組合長…私が理事になったころは、債務超過で誰も手がなかった。

私も当時の組合長の説得でしぶしぶ理事を引き受けたが、翌日に印鑑証明を取りに来られた時の衝撃は忘れられない。今の参事をはじめ全職員が、昼も夜もなく働いていた。あれがあるから今の組合がある。そして作業員の若返りを図り、「育てる林業をやめろ。木を育てることをやめて人を育てよう」と呼びかけた。そこから組合そのものが変わってきた。

◆俺だったらこうするという発想

所長…今年、県立農林大学校に林業経営学科ができましたが。



組合長…うちにも一人インターンシップが来ました。山形大学からも毎年学生が来ます。うちの職員には「人に使われないで、俺だったらこうする」という発想、工夫を出せ」とよく言います。そのためには、全職員・作業員を月給制にしました。また、そうして出てきたアイデアを使って得た利益は、職員・作業員に分配しています。ボーナスは必ず私が一人一人に現金で手渡ししています。これまでの三K（きつい、危険、汚い）から新三K（高給、健康、格好いい）にしていきたいと思っています。

◆集落単位に何百万、何千万単位でお金が落ちる

所長…月給制にすると通年の仕事の確保が大変だと思いますが。

組合長…今年はいくつかから鼠ヶ関で八ヘクタールの搬出間伐を四ヶ月で行う予定です。二月には二十数箇所で座談会を役職員が二手に分かれて行います。組合と組合員のコミュニケーションが大切で、理事が重要な役割を果たしています。また間伐で組合員に還元できるようにしました。去年は、集落単位で見れば、何百万、何千万単位で還元金をお支払いできました。そのうえ、間伐前には全て灌木を刈払いますので、出上がりはとてきれいなようになります。ある組合員から、「出上がった林を見た息子から『山の境界を覚えて欲しい』と言われた」という喜びの声があつたそうです。

◆これからの組合について

組合長…温海町森林組合は、資源量や区域などちょうどいい規模であると感じています。組合員、役員、職員、作業員が目標に向かい一つになり、大きなスーパーマンのように丸い組合でありたいと考えています。

本記事は対談の一部分です。全文は
<http://www.pref.yamagata.jp/ou/nor-insuisan/142003/kyo-jikan/>をご覧ください。

〔森林研究研修センター〕

森の人紹介

スギ苗木を生産して六十五年

大江町 大沼 健藏さん



村山地域森の感謝祭で
表彰を受ける大沼さん(左側)

大江町沢口で長年スギ苗木を生産してきた大沼健藏さんを紹介します。大沼さんは米づくりを中心とした農業に従事する一方、二十代半ばから地元森林組合の要請を受け、スギ苗木の生産に取り組み始めました。農作物とは勝手がちがいがい、初めはかなり戸惑ったそうです。播種の際の種子量の調整、間引きの強度、消毒液の調整、回数、根切りの方法等を試行錯誤し、納得できるスギ苗木

が生産できるようになるまで数年かかりました。

特に春の乾燥期、夏の炎天下の水管理には大変苦労したそうです。今では苗畑面積百二十㎡、年間の山行き苗木の生産量が二百本と経営規模は小さくなりましたが、その苗木の品質の良さには定評があり、最盛期には年間三万本を育てていました。

農業とスギ苗木生産の多忙な業務のかたわら、沢口地区の農事実行組合の代表として、十数年の長きにわたり地元農家と農林行政のパイプ役を勤めてきました。誠実な人柄とその仕事ぶりは、地区の住民や町から高い信頼を得ています。

長年にわたり優良なスギ苗木をつくり続け、林業に貢献してきたことが評価され、平成二十三年度に公益社団法人国土緑化推進機構が選定する「森の名手・名人」に選定されました。さらに今年度、村山地域森林・林業功労者として九月二十四日、大江町で開催された村山地域森の感謝祭で、村山地域林業振興協議会会長から表彰を受けました。九十一歳になる現在も現役でスギ苗木生産を続ける大沼さん、今後も村山地域の林業を支えていただきたいと思います。

〔村山総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

豊かな森の伝承者

株式会社グリーンバレー神室振興公社副支配人
(兼)遊学の森「木もれび館」副館長

三上重幸さん



金山町にある遊学の森「木もれび館」で運営管理をされている三上重幸さんを紹介いたします。三上さんは地元金山町生まれの金山町育ちで、県外の大学を卒業後、地元での就職を希望し金山町に戻ってきました。

その後、現在の(株)グリーンバレー神室振興公社に就職し、遊学の森「木もれび館」に配属され、現在の副館長になって四年目になります。

三上さんに、現在の活動内容、今後の目標等をお聞きしました。

① 遊学の森「木もれび館」では、どのような活動をしていますか？
「動植物の観察会や、間伐材を使った木工クラフト作り、地域の食材を使った食の体験などを行なっています」

② どういった施設がありますか？

「敷地内には、我々が保全管理を行なっている約十二haの自然豊かな県有林があり、その森を利用したイベントを開催しています。その他、地元の方がボランティアで作ってくれた「炭焼き釜」では、きのこを使ったピザ料理を体験できますし、木工クラフトを作るための作業場等はいつでも使えます」

③ 森の魅力を教えてください。

「森には、教科書通りのものはありません。実際に森に入ると森の豊かさを体感してもらいたいです。子供達は感受性が豊かなので大人が気付かないようなことに、はっとさせられることもあります。是非、親子揃って参加してもらって楽しんでもらいたいです」

④ 三上さんのこれからの目標は？

「多くの人がこの遊学の森を自分達の庭だと思い、自分達でこの自然を守っていくと思ってもらえるようにしたいです。そのためにも、支えてもらっている地域や森の案内人の方々と一緒に、豊かな森の魅力発信していきたいと思っています」

三上さんの今後の活躍に期待したいと思います。

〔最上総合支庁森林整備課〕

やまがた緑環境税事業

「森づくりセミナー」&活動報告会を開催

はじめに

県では「やまがた緑環境税」を活用した森づくりの取り組みを広く県民の方々に発信し、県民参加の森づくり活動を促進するため、毎年「森づくり報告会」を開催しています。例年県内四地域での開催でしたが、今年は、十一月二十六日（土）南陽市文化会館を会場に、県内一円を対象として開催いたしました。

当日は、森づくり活動団体の代表による活動発表と基調講演を行ったほか、初の試みとして森づくり活動団体による木工クラフト体験などのワークショップを開催しました。

◆森づくり活動発表

みどり環境公募事業実施団体から四団体、みどり環境交付金事業実施市町村とやまがた絆の森協定締結企業から各一団体の計六団体が活動発表を行いました。発表では、森づくり活動の情報発信や、幅広い年代が取り組む森づくり活動の紹介など、今後の森づくり活動の参考となる様々な事例報告がありました。参加者は、自分たちの活動を思い浮かべな



会場の様子

◆基調講演

から、熱心に耳を傾けていました。活動発表に引き続き、「森でつながるいのちのわ」森での活動を通じて」と題して、NPO法人やまぼうし自然学校の加々美 貴代氏に講演していただきました。

加々美氏は長野県出身で山形大学を卒業後、長野県の菅平高原のNPO法人やまぼうし自然学校で職員として勤務し、二〇〇八年からは代表理事として活躍されています。講演では、地域の自然環境を活かした春夏秋冬の活動プログラムの実施や、指導者の養成など、森と人をつな

げる自然学校の取り組みを紹介していただきました。「自分たちの考えを引継いだ仲間が増えるということは心強い財産になる」という言葉が、非常に印象的でした。

◆ワークショップ

県内各地域で木工クラフトなどに取り組む四団体によるワークショップを開催しました。会場は、報告会参加者に加え、親子連れなど多くの一般客で賑わいました。

会場では、木工体験を行いながら活動内容について情報交換している団体が数多く見られ、地域の垣根を越えた団体間の交流を促進することができました。

また、一般の方に、木に触れ、暮らしに役立つ作品を作っていたことで木に親しみを感じ、木を暮ら



ワークショップの様子

活動発表団体及びワークショップ参加団体

地域	活動発表団体名 (下段:内容)	ワークショップ団体名 (下段:内容)
村山	大江町沢口区若者会 (木質バイオマスの利活用について)	北村山建設総合組合 (ブックスタンド・フラワーポット作り)
	日東ベスト株式会社 (活動の「見える化」について)	
最上	鮭川村自然保護委員会 (希少種生息地の保全と森林環境教育)	かねやまの森 地域連携学習隊 (木製スプーンやフォーク作り)
置賜	特定非営利活動法人 ひびき (「森の健康診断」について)	株式会社ニューテックシンセイ (もくロックで木製品にふれる体験)
	南陽市 (幼児や企業を対象とした森づくり)	
庄内	くしびきこしゃってプロジェクト (木の魅力を伝えるワークショップについて)	くしびきこしゃってプロジェクト (木に焼きゴテで絵や文字を描く体験)

◆おわりに
しの中に活かすことの大切さについて知っていただくことができました。

森づくり活動報告会に一八三名、ワークショップに一二六名の参加をいただきました。他の地域の活動も知ること、日ごろの活動の意欲向上につながったものと考えます。県では、今後とも、団体や市町村、企業などが取り組む森づくり活動に対し支援を行ってまいります。

〔県みどり自然課〕

お知らせ

平成二十九年年度
山形県みどり豊かな
森林環境づくり推進事業
募集開始のお知らせ

やまがた緑環境税で支援する県民参加の森づくり活動を募集します。

◆募集期間

平成二十九年一月十日(火)から
二月六日(月)まで

◆お問い合わせ

応募方法などの詳しい内容は最寄りの総合支庁森林整備課森づくり推進室までお問い合わせください。

○村山総合支庁森林整備課

(TEL 023-621-8156)

○最上総合支庁森林整備課

(TEL 0233-29-1348)

○置賜総合支庁森林整備課

(TEL 0238-35-9053)

○庄内総合支庁森林整備課

(TEL 0235-66-5523)

※事業の実施は、平成二十九年年度の予算成立が前提となりますのでご了承ください。

〔県みどり自然課〕

伐採から再造林まで

民国連携一貫作業システム現地検討会開催

◆はじめに

村山総合支庁では平成二十五年十一月に山形森林管理署、県林業公社との三者で「村山地域森林整備推進協定」を締結し、民国連携による効率的な路網の整備や高性能林業機械の導入による低コストの森林整備の推進を目指すこととしています。



現地検討会の状況

◆一貫作業システム現地検討会

開催日 平成二十八年十月十二日

会場 山形市柏倉外一焼山外十三

国有林二六六林班

参加者 村山管内の森林組合、林業

事業体、市町担当者等

はじめに、国有林担当者から、現地

及び事業の概要、作業仕組み等について説明。また、林業の成長産業化に向けた森林施策の省力化の必要性等について説明がありました。続いて村山総合支庁担当者が、多雪地域でのコンテナ苗の初期成長特性について説明しました。次に事業を請け負った(株)荒正 大風業務課長から、施行する際工夫した点等について説明を受け、現地を見学しながら意見交換を行いました。

◆おわりに

木材価格が低迷し、森林所有者が林業に意欲を持ってない現状にあって、主伐と再造林を同時に行う一貫作業システムの普及は、再造林の推進に不可欠な要素です。同時に施業の集約化による経費の節減、苗木生産、下刈り、除間伐等施業全般のよりいっそうの低コスト化に取組んでいく必要があります。村山総合支庁では、今後も国有林をはじめ、各機関と連携して、森林整備の省力化に取組んでいきたいと思えます。

〔村山総合支庁森林整備課〕

総合電設業・一般廃棄物、産業廃棄物リサイクル事業
地域の暮らしをしっかりとバックアップしています。



(株) 渡会電気土木

代表取締役 渡会昇

本社/鶴岡市下山添字一里塚36

☎0235-57-2454代 FAX0235-57-2345

田代工場/鶴岡市田代字広瀬16-2

☎0235-57-4778代 FAX0235-57-4786

営業所/酒田・山形・米沢・新庄・仙台・酒田共同火力工事事務所

尾花沢市細野地区

六次産業化の取組み

県内の中山間地域では人口減少・少子高齢化が進んでおり、雇用確保や所得向上が課題とされています。そんな中で、山菜・きのこの特用林産物を活用した地域振興に取組んでいる尾花沢市細野地区について紹介します。

◆細野地区の概要

細野地区は尾花沢市の東南部に位置する戸数約八〇戸、人口約二五〇人の集落です。積雪が三mを超える山間部にあり、昭和二十年代に比べると人口は約半分へと、過疎化が進行しています。

地元の林業士である五十嵐幸一さんを中心に、地域にある資源を再認識し、都市と農村の交流や地域資源の有効活用を図り、集落の活性化に取組むことを目的に、平成二十二年四月「清流と山菜の里ほその村」が設立されました。

◆活動内容

「清流と山菜の里ほその村」では、県の補助事業等を活用し、なめこのほだ場造成や、山菜（ワラビ、ネマガリタケ、ミズ等）栽培地造成を行

って特用林産物の生産拡大を進めるとともに、特用林産物の加工施設「かあちゃん広場」を整備し、生産から加工、販売まで一体的に実施しています。平成二十七年には「かあちゃん広場」の隣にレストラン「蔵」をオープンし、旬の食材を使った料理の提供も始めました。

生産品目は米・野菜、山菜・きのこ、メープルシロップ・そば・イワナ等幅広く、「ふるさと定期便」として年四回、会員に向けた発送を行っています。

また、収穫体験会、新そば・秋の味覚祭り、山菜採りツアーなど、様々なイベントを開催し、年間の交流人口は約二千人にもなります。県内外のファンを獲得し、近年では細野地区への移住者もでています。

◆今後の取組み

観光わらび園の開園を目標に、毎年ワラビポット苗一万株を生産し、造成ポランテアを募集して、イベントを組んだ植付けを進めています。乗用車の乗入れが可能になるよう今後作業道の整備も進める予定です。

また、「山の日」を契機に選定が進んでいる「やまがた百名山」の一次選考に、地元の山「大平山」が選定されたことから、「太平山登山」と「山の収穫体験」、「レストラン蔵」での食事」などを組合わせたイベントの企画に取組んでいく予定です。



特用林産物加工施設
「かあちゃん広場」



〔村山総合支庁森林整備課〕

整備が進む観光ワラビ園予定地

—全国食用きのこ種菌協会会員—

〒999-7757
山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電話 0234(42)1122(代)
FAX 0234(42)1124

東北みちのくの珍味

トンビマイタケ菌床
まいたけ 榎木

庭先でも栽培
できます。



きのこ種菌 しいたけ・なめこ・ひらたけ・むぎたけ・かのか・くりたけ他

フラワー長井線

「森林ノミクス号 秋のめぐみを楽しもう」の運行

◆はじめに

十一月十六日に運行した「森林ノミクス号」は、一九二二年から地域とともに走ってきた「長井線」の企画列車として、紅葉後半の山々に向け走り出しました。

列車は、普段一両で運行している車両に沿線市町の応援を受けた華やかな一両を連結し運行されています。
◆行きの列車内で

接続するJR線とは趣を異にする、木造の赤湯駅舎から階段を登り降りした先、レトロな雰囲気満天のプラットフォームからの出発です。

山形市周辺からの方々を乗せ、日常とは違う各駅停車での短い旅が始まりました。

さて、今回のひとつの目玉は、列車時間でちょっと遅いお昼にいただく季節の料理です。そしてふたつ目は、山に分け入ることが楽しくて仕方がない、山々に暖かい眼差しを注いでいる方々の話です。先ずはその話から頂戴した一言をご紹介します。

「キノコ名人 丸川信浩さん」

「出った!!」

「売るキノコは採らない」



「近くの皆さんや家族に喜んでいただけるのが幸せ」

「現代の山守 平山直樹さん」

「山の良さは理屈ではなく、それを感じたときの気持ち良さ、感覚といますか、それを感じたときの心地良さにあります」

「ひとりひとり違う感性、(感性で)山を守るのが(自分の)仕事」

◆白鷹町八幡二公民館でお昼

・天然舞茸のご飯

・松茸のご飯

・天然ナメコの味噌汁

・小鮎唐揚げなどの料理御前

◆公民館で森林とふれあい体験

森林インストラクター奥山彰敏さんの「木の実を使ったクラフト」指導で、掌にのる位のクラフトづくりを行い、参加の皆さんと協力スタッフで、創る喜びを楽しみました。

◆帰りの列車内で

森林インストラクターから「森の話いろいろ」としてジャンツェンコンネルモデルなどの説明があり、森林への認識を深めました。

そして旅も終わりに近づき、林業普及指導員とつや姫レディーが「原木ナメコ」と「つや姫」のお土産を皆さんにお渡しし、車両内は笑顔にあふれました。

◆おわりに

旅の始まりの十二時二五分、赤湯駅での乗車時は雲間が広がり今にも降出しそうな空模様でしたが、荒砥駅と棟をひとつにする暖かな公民館で、この時しか食べられない「秋のめぐみ」をいただいた昼食時や、旅の終わりの十五時二三分、赤湯駅では、穏やかな小春日和を満喫した旅となりました。

今回の企画では、何よりも、県内にお住まいの約三十人の皆さんの満足した笑顔に魅了され、「森林ノミクス」推進に繋がられたかな、と思われた午後となりました。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



寒い冬にも、やっぱり「きのこ」!

きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

きのこパワーで健康生活! “毎日食べよう山形きのこ”

山形県きのこ振興会

〒990-2339 山形市成沢西4-9-32 ☎023-688-8100

地域再生シンポジウム 「持続的な広葉樹利用による地域再生」の開催について

◆はじめに

置賜地域は、県内で最も広葉樹資源が豊富な地域です。この資源を「どのようにして持続的に利用していくか」をテーマにシンポジウムが開催されましたので、お知らせします。

開催日は、平成二十八年九月二十九日・三十日の二日間で、一日目は南陽市文化会館を会場として、講演・話題提供・総合討論が行われ、二日目は米沢市・川西町・小国町を会場に現地検討会が行われました。

主催は、国立開発研究法人森林総合研究所東北支所と東北大学大学院農学研究科で、置賜林業推進協議会が共催しました。

◆内容

【一日目】

講演は、東北大学大学院清和教授が、「林業・林産業は生態系を保全しながら―種多様性の必然性と機能性・経済性―」と題して、新潟大学大学院紙谷教授が、「川上く川下の連携で、かつての薪炭ブナ林を用材

として活用する試み」と題して、置賜総合支庁佐藤森林整備課長が「置賜地域の広葉樹資源の現状とその利用状況について」と題して、行いました。



シンポジウムの様子

ワークショップとして、長野県の有賀家具店有賀社長から多彩な広葉樹を利用したドアなどの説明がありました。

話題提供は、(株)アイタ工業相田社長から「置賜産広葉樹を住宅に活かす」と題して、デザイナーの吉田勝信氏から「山を現代的に使う里山

再生事業」と題して、同じくデザイナーの須藤修氏から「やまがたをルートとしたデザイン活用」と題して、説明がありました。

最後に、講演者・話題提供者をパネラーとして、総合討論が行われ、参加者から出された質問をもとに、活発な意見交換が行われました。

【二日目】

現地検討会は、世界最大の木造コナサートホールでギネス記録に認定された南陽市文化会館を見学した後、米沢市内で広葉樹の床材等を製造している(株)アイタ工業の工場を見学しました。川西町玉庭地区では、里山林再生事業の取組みとしてアケビづる採取の状況を見学し、小国町伊佐領地区では、千葉県からの移住者で、炭焼きに従事している柳沢氏の炭窯を見学しました。

◆おわりに

置賜総合支庁では今年度から、広葉樹材の利用拡大に向けて、ワーキングチームによる検討を行っております。本シンポジウムも一つの契機となり、置賜地域で多彩な広葉樹利用が進むことを期待します。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



川西町玉庭地区でアケビづる採取を見学



(株)アイタ工業製材工場見学

「庄内森とみどりのフェスティバル2016」を 開催しました！ ～庄内の森林・林業をPR～

今年も秋のイベント「庄内森とみどりのフェスティバル2016」が鶴岡市と酒田市の二会場で開催されました。

このフェスティバルは森林・林業の重要性、県民参加の森づくり、地域産材等の利活用などについて広くPRすることを目的に、鶴岡会場では十月十五日(土)から十六日(日)の二日間、酒田会場では十月二十三日(日)に、それぞれ「つるおか大産業まつり」、「酒田市農林水産まつり」等との同時開催で行われました。また、同会場でそれぞれ「庄内地方森林・林業・緑化功労者表彰」を行いました。



木のパズル
～完成できるかな!?!～

森林やまがた 一六七号

◆鶴岡会場

- ・開催会場 鶴岡市小真木原公園
- ・併催行事 山形県技能まつり、山形県フラワーフェスティバル等

鶴岡会場は二日間とも秋晴れの下で、木工クラフト体験、木工作・きのこ・山菜などの林産物の販売、地元木材・木質バイオマスの展示などがあり、大勢の方にご来場いただきました。このほかにも、上棟式の実演や緑化樹プレゼント、キノコ汁の振舞いなどの企画は行列が出来るほど大盛況でした。子どもたちは、丸太切り体験や丸太釣り競争に参加し、楽しみながら木に親しんでいました。

◆酒田会場

- ・開催会場 酒田市中町商店街
- ・併催行事 酒田んめちや市

商店街に出店がずらっと並んでの開催となり、木工クラフト体験や林産物の販売などに多くの方が足を止めて楽しまれました。緑化樹配布やきのこプレゼント、子どもたちの丸太釣り競争などの企画も多くの方に参加いただいたほか、「森は海

恋人」といわれることから、飛鳥サザエの振舞いもあり、森・海の恵みも堪能していただきました。

◆庄内地方森林・林業・緑化功労者表彰

この表彰は、庄内地方の森林・林業の振興並びに緑化推進に顕著な功績があった個人・団体を表彰するものです。本年度受賞されたお二人をご紹介します。

○上林幹夫氏

上林幹夫氏は、五十年以上にわたり林業経営に積極的に携われ、地元森林組合の理事を六期務めるなど、森林組合の経営や組織強化に取組み、地域林業の活性化に貢献されました。また、県林業士や庄内林業研究会の会員として、小中学生から森林所有者までの幅広い年代に対して、森林・林業に関する知識や技術を伝えるなど、地域の指導者として林業後継者の育成にも尽力されています。



上林 幹夫 氏(左)

○阿部 昭氏

阿部昭氏は、四十年以上にわたり地域産の杉を主体に製材業を営まれており、地域の家づくりネットワークが建てる住宅等に多くの地域材を供給することで、県の林業・木材産業の振興に貢献されています。また、日本農林規格(JAS)の認定を受け、県外にも製品を出荷するなど、積極的に品質の確保・販路の拡大等に努めており、地域材の需要拡大にも大きく寄与されています。そして平成十七年からは県木材産業協同組合の酒田飽海支部長を務められており、地域の製材業のリーダーとして後進の指導にも積極的に取組まれています。



阿部 昭 氏(中央右)

〔庄内総合支庁森林整備課〕

平成二十九年一月一日発行(隔月発行)
編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号

山形県森林協会

監修

山形県農林水産部
印刷所 渡辺印刷

定価 二八八円